

国際地域イノベーター人材養成プログラム 科目概要

⑤ ソーシャルクリニックと地域

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター

センター長 齋藤 征人

【1】科目の概要

本科目では、ソーシャルクリニック・モデル（地域の課題を適切に捉え、解決策を検討し、解決へ向けて試行・実践する一連のプロセス。地域と大学との協働によって取り組んでいく地域課題の診療過程）とその実践事例を通じて、地域づくりや観光まちづくりの現場で主体的に行動し、地域の活性化・再生に取り組むための方法を学びます。

【2】授業の実施経過

授業は、受講人数と会場およびゲストスピーカーの都合から対面授業と遠隔授業を併用しました。具体的には、①対面授業、②Zoomによるオンライン授業、③動画視聴によるオンデマンド授業の3種類です。外部のゲストスピーカーの回については、受講者は予め動画を視聴し、その後Zoomで感想や気づき、学びを共有しました。ゲストは、日頃から地域課題の解決や魅力発見・発信に取り組んでいる、地域の「イノベーター」たちです。

【ゲストスピーカー】

※敬称略

授業内容	講師	
情報発信の基礎	溝手 孝司	株式会社ユータスネット 代表取締役
観光と地域振興	奥平 理	本学地域政策グループ 准教授
地域づくり支援の実際（厚真編）	草野 竹史	NPO法人ezorock 代表理事
	水谷 あゆみ	NPO法人ezorock コーディネーター
地域づくり支援の実際（八雲編）	赤井 義大	株式会社木蓮 取締役
地域づくり支援の実際（厚沢部編）	荒木 敬仁	厚沢部農楽会事務局
地域づくり支援の実際（南茅部編）	吉田 萌々音	函館市南茅部支所 地域振興課 主事

【3】ゲストスピーカーの声

〈1〉溝手 孝司 先生

昨年度に続きゲストスピーカーとして呼んでいただきありがとうございます。今回はすべてオンラインでしたが、今年度は対面授業も一度させていただきました。学生の表情やリアクションを見られるのはとても良いですね。オンラインは便利だけどリアルって大事。

ソーシャルクリニックもそう。WEBや資料でどれだけ調べても地域の本質はきちんと見えてこない。机上で何時間も考えるより、地域の人と直接会って話を聞いたり、その街を自分の目で見て感じて体験する。それが一番大事だとあらためて感じました。



講義終了後、「感想質問、こんなことを話して欲しいってリクエストがあればメールください」と呼びかけたところ、多くの学生から質問や感想が送られてきました。私の拙い話に学生が返信メールを送ってくれる。そんなキャッチボールをでき、充実した3週間でした。

来年は講義終了後に交流会とかできたらいいな…と頼まれてもいないのに勝手に来年も参戦する気満々の溝手でした。

〈2〉草野 竹史 先生・水谷 あゆみ 先生

2019年より、厚真町の長期滞在実習プログラムを教育大函館校のみなさんで行うようになって、4年目を迎えました。当時は被災地と呼ばれた厚真町も時間と共に姿が変わり、パッと見るとだいぶ印象が異なってきています。皆さんに対して、起きた出来事のごくごく一部ではありますが、私たちが見てきた“まちの変化”を伝える役目を担っていると思うので、当時の写真を見せながら、口頭で伝えていきます。毎年この瞬間に皆さんの反応を見ながら、この話題でいいんだろうか、この伝え方でいいんだろうかと自問自答を繰り返すことを続けているのですが、今年の授業を受けていただいたみなさんにはどのように伝わっているでしょうか。

最後になりますが、教育大函館校はとてもユニークで私たちにとっては魅力的な大学です。その魅力の一つ挙げるとしたら、地域の生々しい現場で経験したことを、ただの経験で終わらせるのではなく、自分たちの学びや成長に変えていく“学びの変換率”の高さです。「どういうことなんだろうか？」という探究心ともいえるのかもしれない。みなさんと厚真をはじめ、地域の現場でお会いできるのを楽しみにしています。

